



スイス再保険、新興市場を牽引役に 2011 年も世界経済の拡大が続くと予想 投資収益の低迷が保険会社の利益を圧迫 金融危機による市場の混乱と過剰規制が保険会社のリスク要因

Contact:

Media Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 7171

Corporate Communications, London
Telephone +44 20 7933 3445

Corporate Communications, Asia
Telephone +852 2582 3660

Corporate Communications, New York
Telephone +1 212 317 5663

Investor Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Reinsurance Company Ltd
Mythenquai 50/60
P.O. Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999
www.swissre.com

ロンドン、2010年12月7日—スイス再保険会社(以下、スイス・リー)のエコノミストは2011年も保険業界と再保険業界では成長が続くと予想しています。しかし、金融市場の混乱によって世界景気の回復に歯止めがかかる可能性も指摘しています。ほぼすべての事業、地域において保険料が増加し、特に多くの新興市場諸国が非常に好調なことから、保険業界の資本は金融危機以前の水準を上回っています。しかし、低金利下で投資収益が落ち込み、利益率を圧迫する状態が続きそうです。したがって、(再)保険会社は、厳正な引受業務を維持していく必要があります。今後重要な課題となるのは、規制に関する要因により、保険会社が利回りの低い国債への投資を余儀なくされ、市場の好転のチャンスを逃すリスクが強まってしまうということです。

スイス・リーの米国チーフ・エコノミストであるクルト・カールは今朝のスイス・リー経済フォーラムの会議電話で次のように述べる予定です。「2010年は世界経済が緩やかな成長を遂げましたが、2011年もその傾向が続く見通しです。景気の面では、先進国と新興市場は違う様相をみせています。新興市場は好景気に沸いていますが、先進国は伸び悩み、2011年と2012年もその状態が続くでしょう。インフレ圧力が引き続き弱く、一部のEU諸国が財政危機に瀕していることから、主要国が来年中に大幅な金融引き締めを実施するとは考えられません」

2011年と2012年は先進国の経済成長がわずかながら加速する見通しですが、米国では2.5%-3%、日本は1.5%、ヨーロッパは2%前後と長期平均に近い水準に留まりそうです。来年は新興市場で高い経済成長が予想されており、いくつかの市場でインフレ圧力が強まるでしょう。先進国では2011年を通じて指標金利が低い状態が続く見通しですが、世界経済の好転に伴い長期金利は緩やかに上昇するでしょう。

金融市場の混乱が景気回復のリスク要因

ユーロ圏における財政危機問題の拡大などをきっかけに金融市場が再び混乱に陥り、景気回復が停滞するリスクが続いています。クルト・カールは、次のように述べる予定です。「景気が回復し始めてから1年半近く経ち、その範囲は拡大しているにもかかわらず、投資家の景気回復継続への信頼感はまだ弱いのが現状です。米国、アイルランド、スペインを始めいくつかの主要不動産市場で不安定な状態が続いています。国際通貨基金(IMF)やEUからの支援は受けたものの、ギリシャやアイル

ランドが直面している問題に対処できるのか否か、懸念は依然として存在しています」

保険会社にとっては、先進国の金融緩和に伴う低金利が引き続き重要な課題となります。スイス・リーのチーフ・エコノミストである トマス・ヘスは次のように述べます。「保険会社、年金ファンド、そして個人の貯蓄家は政府による割安な資金調達や融資を受ける世帯や企業のツケを払っているのです」

スイス・リーのエコノミストによると、保険業界に対する過剰規制のリスクも引き続き深刻です。EU のソルベンシーII 規制の取組みは総じて歓迎すべきものですが、導入策が当初の経済原理からかけ離れたものになった場合、保険会社の多くが自己資本の増強を迫られることになりそうです。

クルト・カールはさらに次のように述べます。「保険業界に対する規制当局の過度の保守主義は容認されるものではありません。保険会社は金融危機でさほど痛手を受けなかったうえ、そもそも金融危機の原因は銀行にありました。保険業界は将来の金融危機を回避する手だてとしてシステミック・リスクを監視する取り組みに参加することに反対はしませんが、保険の中核業務がシステミック・リスクの発端でない以上、保険グループをシステミック・リスクの対象として監督することには反対です。代わりに、金融グループへの監督強化に努力を傾けるべきです」

元受保険会社のバランスシートは 2010 年に一段と改善 損害保険市場は 2012 年にも好転する見通し

景気回復と金融市場のさらなる改善が追い風となり、2011 年、損害保険および生命保険の保険料の伸びは加速する見込みです。

先進国における損害保険の成長率は、3%(インフレ調整済み)、新興市場では 7%~8%(インフレ調整済み)になる見通しです。損害保険の保険料率は、ここ数年低下しています。トマス・ヘスは次のように述べます。「現在の保険料は、金利が是正されたとしても、持続可能なものではありません。保険料率の見直しは延び延びになっていますが、実現には 2012 年まで待たなければならないかもしれません」

元受生命・医療保険セクターは回復しています。2010 年の保険料収入は世界全体で 4.3%増を記録しました。2011 年は元受生命保険が再び金融危機以前の軌道にのると思われますが、投資収益の伸び悩みから利益率の低迷が続きそうです。

生命再保険と損害再保険は緩やかな伸び

損害再保険業界は現在、元受保険業界よりも好調に推移しています。前年までの支払準備金の戻し入れにより、2010 年の業界のコンバインド・レシオは 96%になる見通しです。2010 年の保険損害は、上半期

に発生した巨額の損害が、米国のハリケーン被害が少なかったことにより相殺されたため、業界の長期平均に近い水準にとどまりました。損害再保険業界は緩やかな成長を見込んでいますが、保険料率低下に伴い利益率は低下する見込みです。適切な分野とリスクを選択できる引受能力に優れた企業が、今後は競争力を持つことになるでしょう。

生命再保険は、年率 10%前後の成長を誇る新興市場が低迷する先進国を補うことから、総じて緩やかな伸びとなる見通しです。成熟市場で展開する生命再保険会社にとって、長寿保険と大型取引は特に成長が期待される分野です。

新興市場の高成長が継続

クルト・カールは次のように述べます。「新興市場国は 2007 年から 2009 年の金融危機の間も好調に推移しました。これは特に、原材料の輸入を継続し、世界の景気低迷の影響をほとんど受けなかった中国の強さに起因しています。新興国が順調に伸び底堅く回復した結果、現在は潜在成長率付近で推移し、インフレ圧力が高まっています。」

新興市場では旺盛な消費マインド、政府の支援策、労働市場の改善などが短期的に国内需要を押し上げるとみられ、2011 年も高い経済成長が続く見通しです。今後 10 年間の世界経済は年率平均 3.8%で拡大する見通しです。2011 年から 2021 年までの成長率は先進国の 2.4%に対し、新興市場全体では 2 倍以上の 5.9%に達するとみられています。

危機から立ち直った保険業界だが、資産運用に関する課題に直面

保険会社は金融危機後、資産運用の規律を高め資産ポートフォリオのリスク軽減に成功しました。時価評価方式の会計、リスクフリー割引、資本の増強と規制や格付け水準の強化などの要因が一体となり、投資家は低リスク、低収益資産への配分を高めています。規律ある引受を重視しても、低金利に伴う投資収益の減少を完全に補うには至っていません。規制水準によって保険会社が低収益資産への投資を余儀なくされれば、最終的には保険契約者に高い保険料が強いられます。保険資産の分散投資の後退によるコストは、やがて実体経済にも表れてくるでしょう。

トマス・ヘスは次のように述べます。「保険会社は世界の金融資産のうち 22 兆米ドルを占める極めて重要な機関投資家です。資産を効率よく最適運用するには、綿密にポートフォリオを分散投資できる柔軟性が保険会社のアセット・マネージャーには必要です。過度の規制は投資パフォーマンスを損ねます。これは、保険契約者にも当てはまります。そして、保険会社は金融市場の安定を支える長期的な資本提供者兼投資家としての役目が果たせなくなるおそれがあるのです」

スイス再保険会社について

スイス再保険会社(略称「スイス・リー」)は、世界をリードする再保険会社です。当社は世界 20 カ国以上で事業拠点を展開しています。1863 年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にする金融商品を提供しています。伝統的な再保険商品と損害および生命・医療保険関連サービスは、包括的なリスク管理のための保険をベースにしたコーポレート・ファイナンス・ソリューションとその付加サービスによって補完されています。スイス・リーはスタンダード&プアーズから「A+」、ムーディーズから「A1」、A.M. Best から「A」の格付けを取得しています。